

空飛ぶクルマおよびドローン向けポート開発への取り組み ドローンポートシステム『BEP ポート』

概要

2016年から国土交通省や東京大学と共同で、ドローンポートの稼働状況やドローンの運行情報などをリアルタイムに集約・管理する「ポート情報管理システム(VIS)」と、ドローンポート本体から成るドローンポートシステム「BEP ポート」の研究開発を進めており、全国で実証実験を重ねています。

特徴

- 本システムは、「Blue Earth Platform (BEP)※」で開発・運用しており、画像認識による誤差数十センチの高精度着陸が可能なほか、ドローンポートへの人の立ち入りや強風により安全に離着陸できない場合に、自動で離着陸を禁止させる機能を備えているなど、安全なドローン運航が実現できます。
- 災害発生時には、緊急情報の発信と共有、ドローンポート周辺の安全確保、ドローンによる救援物資輸送の自動運航までの一連のオペレーションの統合運用・管理を可能にしました。



「BEPポート」の動画をご覧ください→

今後の展開

- 空飛ぶクルマやドローンを社会実装するためには、ポート自体の稼働状況の監視や管理はもちろん、飛行・運航状況や離着陸時の安全を確認するVISが必要不可欠です。ブルーイノベーションは、一日でも早い実用化に向け取り組んでいます。

テーマ「Society5.0への貢献～サイバーとフィジカルの融合に向けて～」との関連

- これまでヒトが行っていた業務をドローンやロボットが担うことで、ヒトとロボットが協調した業務環境を整備するとともに、それらのドローンやロボットが物流や交通などの業務システム、さらに都市OSと連携することでスーパーシティの実現に寄与します。



BEPポートの「ポート情報管理システム(VIS)」画面



固定式ドローンポート(左)と可搬式ドローンポート(右)

※Blue Earth Platform (BEP)・・・ブルーイノベーション独自のデバイス統合プラットフォーム。ATRの「UNRプラットフォーム」を元に開発。

連絡先:ブルーイノベーション株式会社 PRマーケティング部 E-mail: info@blue-i.co.jp